

これが世界の歪みだ



Matumoto Drill Laboratory

R-18



サイズ
合わないの



スメラギさん…

…



すぐに
他の用意
します



セクハラです
パパっ!

わしは
そのままが
いいな

キッパッ



腹はら、
膨ふる



これが世界の歪みだ

かすみ義幸
みながのーん

二年前

クジョウウッ

おきなよ
クジョウウ

こんな所で寝てたら
カゼをひいてしまうよ

いーのっー



ほら

んーほっといーよ
ピリッ

私なんでもう
どうなっても
いいのよ

まったく
何を言っ
てるんだい

ふう

私は戦いに敗れ
自分に負け
今はこの男の元で
過ごしていた

困ったね

おやおや

私の大学の
友人...

私の事を
何も聞かずに
置いてくれる
優しい人



さきー

いーのっー

けっきょく
こんな所で
寝てしまっ...

まったくこうなるぞ
君はテロでも
起きないからな

まったく...

君は本当に
起きないよな

さきこの
優しい人...

まったく...

End

度が過ぎてる

襲え!!

ええっ!?
起きてるー!

かぶーん!



このタイミングで何で
襲ってこないのよ!

しかも
あたしをネタに
オナニーするなら
まだしも

なんでそんなムービー
みてやってんのよ!

いやあの
これは...

ねてるスキに
キミを...使って
そんな事なんて...

ひ...卑怯
じゃないか...



こーゆー時は
襲ってOKなのー!
ビリー・カタギリー

ごめん
なさい!





きみ...

んん

んん んん



ピリーは
女の人とこういう事
した事ないの？

私の胸とか
学生時代いつも
見てたじゃない

もう興味なく
なっちゃった？

私 もうオバサンだから
魅力なくなっちゃった？

シメじゃない？

その...
僕は...



ピリーは...

きみは
十分魅力的だよ

あ

あ

んん

んん

んん

んん







たがひっ
こんな時まれっ
んっ

懐かへ
ひたごひん

んっ
らっはに抱ジター
もつと抱じへ
乱暴にしへえっ



ああ...でも...
そんなこと
どうすればいいか
わからないよ

教えてくれないか
戦術予備士さん

この口に
おちんちんを
突っこんで

乱暴に
かき回すの

むせ返るくらい
突き回してザーメン
ノドの奥に
ぶちまけちゃうの



へえ...
いいのかい?
本当にいくま?

やんD
来ノ

じゃあ...
こいあ...

私に
罰金...



んっ

ああっ
スゴいよっ

クジヨウー
最高だよっ

あっ
こんなっ

んっ
んっ









へっ 四穴刺して早くも
イっちゃったぜ

こうなるのを
期待して主任のトコ
いたんじゃねーの

へっじゃあその
期待に応えて
やらんとな

おら 休むな
まだまだ鼻間は
始まったばかりだぜ?

あー



うへっ
キタキー

ゲラゲラッ
すげー臭いっ
クセー(笑)



あ
おらあっ
あ

あれあれ？
何ですか
この人殺しサン
ケツに入れられて
よがってませんか？

んっ
んっ
んっ

あ
あ
あ

あ
あ

おまえらが
どれだけ大層な
事をしたか！

あ

その身で思い
知るまでプチ込み
つつけてやるぜ！

あ

あぶっこめんひやひ
ごめんひやいっ
あひやひつもひきっ

あ

あ

あ
あ
あ

はひはわひやひっへ
ひへはひよひっ

あ
あ
あ

あ
あ
あ
あ
あ
あ

パーカ何書ってつか
わかんねーよ

あ



ひゃほっ
こっちは腹子井
とっころんせっ

あつ
444
444

44-44

あつ
444
444
444

いいぜっ！ ガキのケン
編まりが通うぜ！

あつ
444
444

ママあつ
ママあつ

あつ
あつ
あつ

444444444444444444

あつ

あつ
あつ
あつ

ああつ
ミレイナッ

ミレイナッ

あーん？
奥さん感じ
ちゃってませんか？

ああつ私つ
だめなのっおちんぽ
見ちゃうと我慢
できなくなるのっ

涙だわ

何がっですうっ
だパーカー！



トキトキ

トキトキ

トキトキ

トキトキ

トキトキ

トキトキ

トキトキ

中の人へ
おめでとう

おめでとう
おめでとう
おめでとう
おめでとう
おめでとう

おめでとう
おめでとう
おめでとう
おめでとう
おめでとう

おめでとう
おめでとう
おめでとう
おめでとう
おめでとう

トキトキ

トキトキ

トキトキ

トキトキ

トキトキ

トキトキ

トキトキ

トキトキ

トキトキ

トキトキ

トキトキ

トキトキ

おーおー
そろそろ水しか
出てこないな

元人革さんの
特製洗機は
さすがに違うね

みんなの見てる前で
さんざんぶちまけ
ちゃったねー

そりゃあ
自我も
ふきとぶって
もんな

クセーW
ザッザッ



おらケツ
あげろケツ

は...

はひ...
おにえがい
ひま...

おいおい
ケツに器具入っちゃ
ってんじゃん

ヒデーW





あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

出るう
あひい
あひい〜

はちま〜

はちま〜

あ

あ

あ

あ

あ

はちま

はちま

はちま

はちま
はちま
はちま
はちま





一行はアロウズに連行され、軍事法廷で人権を剥奪された人ではなくた彼女らは人知れず監禁されることとなる。

そこで彼女らは想像を絶する虐待を受けた。

アロウズの将兵に辱罵されながら昼夜なく叩かれ、気絶するまで責められた。無論目が覚めれば再び叩かれるのである。薬物と洗脳で条件付けを施された身体では死ぬこともできない。

女たちはやがて抵抗を諦め、自ら上がり狂うようになる。心の底から許しを乞い、尻を振り鞭撃を見せつけながら、痛罵を受け入れていく。

ガンダムとイスター連は個別に捕らえられ処刑された。

彼女らにはもはや運命を受け入れることしかできなかった。

「私たちが間違っていました……、これからはこの身体で情婦と軍隊の方に……奉仕します……」

フェルトが頭を踏みつけられたまま昏い言葉を言う。胸や性器にピアッシングされ、痛めつけられると悦ぶように続けられてしまったフェルトは個々の快感に溺れているようだ。

その瞬間には実験動物の子供を妊娠したリンダが、大きなお腹を揺すりながら賣明にペニスをなめしやがっている。

「ああん……おちんぼん……私、これがないと一秒も生きていられせんわ……おねがい、このいやらしい孕みまふに、おちんぼんください。何処でも赤ちゃん生みますから……」

リンダは目の前で夫を処刑されてからは焦点の合わない目で快楽を食むようになり、卑んで股を開くようになった。

心を壊され、淫乱癖に調教されたリンダをそれでも悪い韓けたミレイナは「いいはない、幼い身体に入れ歯を入れられ、高級料飲に懇み者にされている。」

何人もの男はしつこく射撃され、「おちんぼん」と精液を垂れ流しながらスメラキはぼんやりと子んな地獄を見つめていた。

乱暴に身体を賣られた余韻がじんじんと身体を焼き、間接はさしきしと悲鳴をあげている。口を開けば麻と共に感じ

込まれ白濁液が口の端から垂れ落ちた。

熱れた肌をヒクヒク麻痺させ、スメラキは虚空にかつめの神隠しの変わり果てた輪舞曲を奏める。

いきなり顔り上げられた。

「げほげほと嘆き込み、精液を鼻から逆流させて虚空に上を向く、さすが天才戦術士博士、正確な情報だ。おかげでワレスタルピーイングの拠点はすべて破壊したよ。」

「……………」

「彼らは重犯罪人だ。捕らえられたメンバーは死ぬまで地獄だよ。君のせいだね。」

枯れ果てたはずの胸が頬を伝い、こぼりついた精液を流した。

身体が乱暴に引き移され、性射撃が乳首にあてられる。

「……さあ、約束の……愛実だ。最後にいい夢を見たまふ。」

第一鞭子ロリスの末路は決まっている。処分までのわずかな時間

スメラキはめぐるめく官能に身を任せることに決めた。

「これでいいのよ……だって、私にながってきたらいいのよ……」

はしたなく物起した乳首に精液が注入されると興奮するような

鞭撃が背筋を走り、ピクーンを身体を揺り返らせて喘息をあげた。

「ちゅ、はっ……あ、あああ……あひひひひひ……くろろ……きますっ！

乳首イイっ！ おまんこいいっ！」

股間から愛液が噴き出し、精液と混ざり合って痺のように流る。

ピンピンとじゅる乳首をつまみ、ひねりあげて自ら噛みし、食むように

濡れそぼ股間に手をあてがい、指を差し込む。

「ひひひひひ……ぞもしいい……あぐく、ひっ、あぐええ、あひやあー

イイっ！ イイイイイ！ おまんこ！ おまんこいいのおおね！」

あまりにもはしたない離乳を冷たい目で見下すと、男は唾を吐いて

立ちあがった。だれだろっ、知っている人だった気がするが。

しかし体中から押し寄せる強烈な官能に、すべては消えてゆく。

スメラキは同士たちを売った罪悪感を忘れようと快感を賣った。

所詮、戦争根絶など夢物語だったのだ。なににもかかれて、奴隷になれはよかつたのだ。自分ごとが夢見ている事ではなかつた。

「ひひひひひ……ちゅくひっ、ちゅくひちちちっでええええ！ ちゅくちゅくちゅくに

してえー、二丁のどろろえいかせとえええ！」

フェルトがざりざりと乳首を引っ張られ、ピエスの穴が裂けそうに

なる快感に痺れながら麻を振りまいている。

「あひひひ！ あひひひ！ 私は麻です！ 麻の赤ちゃんを産みますっ！

あなたも、私は麻でしたあま」

リンダは虚空な目で母乳を吹き出し、息を吹いて気絶した。

地獄で働く女連の上がり声がスメラキの性感をなぞりあげ、焼付け付くような背地にまみれて心地よい。

ズクズクと胸から子んな快楽の波動が放たれる。ポロポロ巾

のよりに濡れた身体に液が広がる。スメラキは全身をくねらせ

て犬のようにあえきながら絶頂を繰り返す。

阻まれずして形が変わった性器をくちゅくちゅにかき混ぜ、

スメラキは一瞬のみ動いた許しに酔いしれるように悶え狂った。

胸や股間を叩いた無様な嗜好で薬物オナニーを賣る自分を

さげすんだ目で見る男たち、その朝すような視線すら忘れ、

恥辱にまみれた哀れな絶頂に翻弄されながらすべてが消えて

ゆく、白く、ただ白く、

むろちりと顔の乗った鞭を振り立て、鞭の音で声高に卑劣な

言葉を並べ立てる。

熱れた女体を握らせ、最後のオルガスオナニーを賣る中、スメラキ

の麻裏に優しく微笑む男性の姿が浮かんだ。

（ああ、エミリオ……）

その瞬間、スメラキは人生最高の夜を感じた。

ひときりわらい風のような絶頂に身体をくねり狂わせ、自らが

はき出した水たまりに顔をつっかす。

無様に尻を高くつきたしつっ、なお股間をまさぐりながら

スメラキは幸せだった。







Matumoto Drill Ladorotory